

乃木坂スクール#07

発信力を磨いて福祉を変える医療を変える～現場から・ジャーナリストから・行政から～

医療福祉ジャーナリズム特論

5月30日

「志の縁結び係&小間使い」として経験したこと、考えたこと介護保険・法改正・ワクチンを題材に

平成25年6月1日

正直この90分の刺激が多すぎ、毎週整理しきれずにいましたが、今回やっと勇気をふりしぼってレポートにまとめてみようと思います。

私は病棟看護師として7年、現在は予防医学に携わりたいと産業保健師として働いています。その間、法改正があれば「変わったんだな～」、ワクチン接種が推奨されれば「接種したほうがいいんだな～」、新薬を知れば「これで患者さん助かるね～」と学会やメディアからの情報を鵜呑みにし、自分のアタマで考えることすらしませんでした。報道への見方がかわったのは、大震災の後ですが、この乃木坂スクールでさらに再認識しているところです。

講義の最後のほうの「子宮頸がんワクチン」について、実感していることがあります。予防医学系の学会にはワクチン推奨のセミナーやシンポジウムが必ずあり、有名大学病院の医師が立ちます。製薬会社が企画するもので、お弁当（無料）をいただきながら聞き、副作用についての説明もありますが、現在起こっている少女たちの現状は話題にはなりません。子宮頸がんは、早期のワクチン接種と定期的な検診で防ぐことができる！！という結論になります。以前までの私であれば、そのまま鵜呑みにして推奨してしまったかもしれません。看護職である私が発した「ことば」は良くも悪くも他者に影響を与えます。一歩立ち止まって「本当にそうなの？」「違う見かたはないの？」「本人にとってどうなの？」と考えることが必要だと改めて思います。

修士課程では、論文を批判的に読むこと、客観性を持つことも学びます。上手く表現できませんが、どこかとても共通しているのを感じます。修士課程での専門分野での学びと、この講義での学びが合わさって、実になれば楽しそうだなと思っているところです。